

小規模多機能型居宅介護「サービス評価」 令和2年度総括表 陽だまりの家

法人名	社会福祉法人 上田しいのみ会	代表者	村上 恒夫	法人・事業所の 特徴	法人の理念に基づき、利用者お一人おひとりの思いに寄り添う支援を目指し、小規模多機能ならではの柔軟なサービス提供を心がけている。より良い支援のため、ご利用者、ご家族とコミュニケーションを図り情報を共有、家族の負担軽減も考慮する。季節に合った活動を心がけ、行事の実施や外出、作品製作などをご利用者の思いに沿いながら実施。作品は敬老会や地域の文化祭にも展示し、ご利用者のやりがいにつながるだけでなく、陽だまりの家を地域に知って頂く機会にもしている。
事業所名	小規模多機能型居宅介護施設 陽だまりの家	施設長 管理者	細川 裕夫 岩佐 みゆき		

出席者	市町村職員	知見を有するもの	地域住民・地域団体	利用者	利用者家族	地域包括支援センター	近隣事業所	事業所職員	その他	合計
	2人	1人	4人	人	0人	1人	人	3人	0人	11人

項目	前回の改善計画	前回の改善計画に対する取組み・結果	意見	今回の改善計画
A. 事業所自己評価の確認	・認知症や体調の衰えがすすんだ利用者が増え、一人ひとりの状況に気配りをして、安全に過ごして頂ける施設を目指す。ご利用者の日々の変化に観察し、体調の変化の気付きを大切にする。	・長期ご利用者が高齢になり入院される方が多く、その後入所施設へ移動が多くあった。 ・体調の変化を注視し、ご家族に伝える事が増えたが、主治医がそれぞれ違うため、受診を依頼する程度になった。	・入院して退院すると介護者から入所を検討する傾向が多い。 ・在宅で高齢者を支える子世代が減少し、核家族の為か兄弟同士でも介護に対する気持ちに温度差がある。	・地域密着型施設で在宅生活の利用者が集まらなくなっている。 ・支援の方など元気な利用者には、施設へ来る楽しみを提案し継続利用する工夫を考える。
B. 事業所のしつらえ・環境	・室内、室外ともに清掃・整頓に心掛け、居心地の良い明るい施設を保ち、利用者に気持ちよく利用して頂く。	・以前はご利用者も野菜や花を世話できたが、体力的にそれらの作業はできなくなり畑は縮小した。 ・外壁、屋根の塗装工事を行い、外観が良くなった。	・庭も内部もきれいになっていて明るく静かで居心地の良い施設だと感じる。 ・10年以上経った施設としてはきれいで職員さんの手入れを感じられる。	・明るく清潔感のある施設を維持してゆく。 ・包括支援センターが移転した後は、リビングを広く使い、利用者の体調に合わせた時間の使い方を検討したい。
C. 事業所と地域のかかわり	・支援の方でも利用が可能な地域密着型の施設として、包括支援センターなどと協力して地域の高齢者が在宅で安心して生活できるような手伝いをする。	・地域の行事にできるだけ参加を検討しているが、自治会の数も多く、高齢者が参加できる行事も限られている。 ・小学生が帰宅の途中、困ると寄ることが出来るようになった。 ・多くのボランティアさんにお出でいただくことができた。	・施設について近隣の方は分かっているが、どんな施設かは利用される高齢者がいないと関心がなく相談にもお見えにならない。 ・困りごとの相談は、包括支援センターと協力している。	・傾聴ボランティア、地元フォークダンスの皆さんなど受け入れを増やす。 ・

D. 地域に出向いて 本人の暮らしを 支える取組み			<ul style="list-style-type: none"> ・利用者で近隣住民の支援を受けている方は現在いません。 ・地域の繋がりが薄れている感じがします。 	
E. 運営推進会議を 活かした取組み			<ul style="list-style-type: none"> ・第六中学校区は、自治連が二つ、民児協が二つ、街づくり組織が二つ、公民館が二つと、一つに絞り込んだ地域活動が難しい地区で、地域密着型サービスも多く、運営推進会議は5事業所にあり、取り組み方もそれぞれ違う。 	
F. 事業所の 防災・災害対策	<ul style="list-style-type: none"> ・避難訓練を継続し、いざという時に職員誰もが対応できるようにする。 ・施設自体も地域の避難困難者を受け入れできるように、食料、備品などを常に準備しておく。 	<ul style="list-style-type: none"> ・台風があり、災害に対する注意を実感した。浦野川は氾濫しなかったが、千曲川沿いの障害者施設から利用者を受け入れた。 ・ 	<ul style="list-style-type: none"> ・避難所の開設は、夜間、休日など職員が連絡を受けて開けて来るとの事で、避難準備した時に開いているかが不安だ。 ・台風の時は、避難所が利用者で一杯になり、高齢者や障害者がいる場所確保難しい状況だった。 	<ul style="list-style-type: none"> ・施設にある非常食、水などの賞味期限を確認し、入替など行う。 ・停電に備え、発電機を準備した。月一度の点検でいつでも使える様に備える。 ・利用者は自宅待機が原則だが、帰ることができない方や近隣の避難者も短期間の受け入れが可能となる。